

問合せ先

第二管区海上保安本部 海洋情報部

監理課長 村上 修司

電話 022-363-0111（内線 2510）



平成 29 年 2 月 27 日

第二管区海上保安本部

午後 3 時 発表

## 被災港湾 21 海域の海図改訂が終了

～今後はアプローチ図の改訂・地盤の隆起対応～

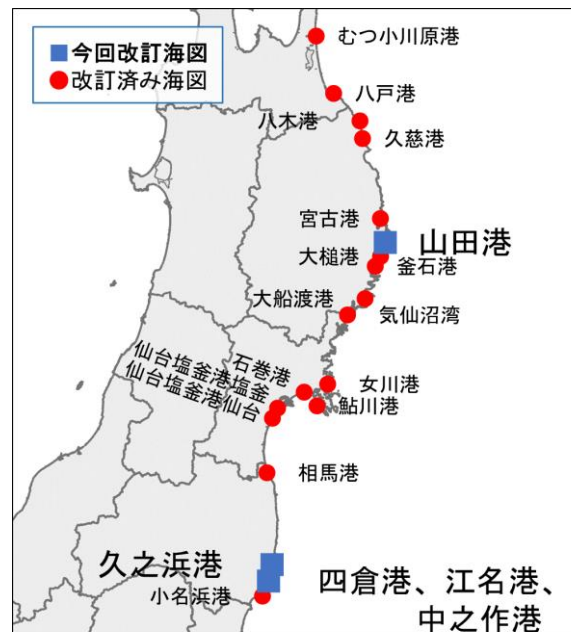
被災港湾である山田港、久之浜港、四倉港、江名港、中之作港の海図を一新し、2月24日発行しました。今回の海図改訂により被災港湾 21 海域の測量結果を適用した海図改訂が終了しました。

第二管区海上保安本部は被災した港湾について計画的に測量を行い、海図の改訂作業を進めてきました。今回、2月24日に山田港、久之浜港、四倉港、江名港、中之作港を含む海図 3 図を改訂したことにより第二管区海上保安本部管内の大縮尺海図 21 海域の改訂作業が終了しました。（右図参照。）

今回の改訂では第二管区海上保安本部が平成 26 年 10 月平成 27 年 9 月にかけて実施した測量により、震災前後の水深変化や復興工事の進捗状況など最新の情報や瓦礫が散乱する様子なども反映されています。これらによりこれらの港を利用する船舶の航行がより安全になります。

また、2月10日にはこれまで改訂した港湾（女川港）を包含する広域の海図（アプローチ図）の改訂を実施しました。

今後も港湾の復興工事の進捗に伴う情報を採り入れるなどの改訂や、震災後の地盤の隆起により水深が変化した海域では必要な水深測量を行い、引き続き海図の最新維持を行っていきます。



## 海図の概要

海図番号	海 図 名	縮 尺	図積	発行日
W1047	女川湾及小泉湾	1/50,000	全	2月10日
W1323	山田港、大槌港	山田港 1/15,000 大槌港 1/7,500	1/2	2月24日
W1096	本州東岸南部沿岸諸分図	四倉港 1/7,000 大津港 1/7,000 江名港及中之作港 1/7,000	1/2	2月24日
W1415	久之浜港	1/3,000	1/4	2月24日

図積：「全」とは用紙寸法 1085mm×765mm 「1/2」とは用紙寸法 765mm×543mm、「1/4」とは用紙寸法 543mm×382mm

海図は、最寄りの水路図誌販売店又は取次店で購入できます。

海図の購入方法（水路図誌販売所）：（一財）日本水路協会の Web ページ

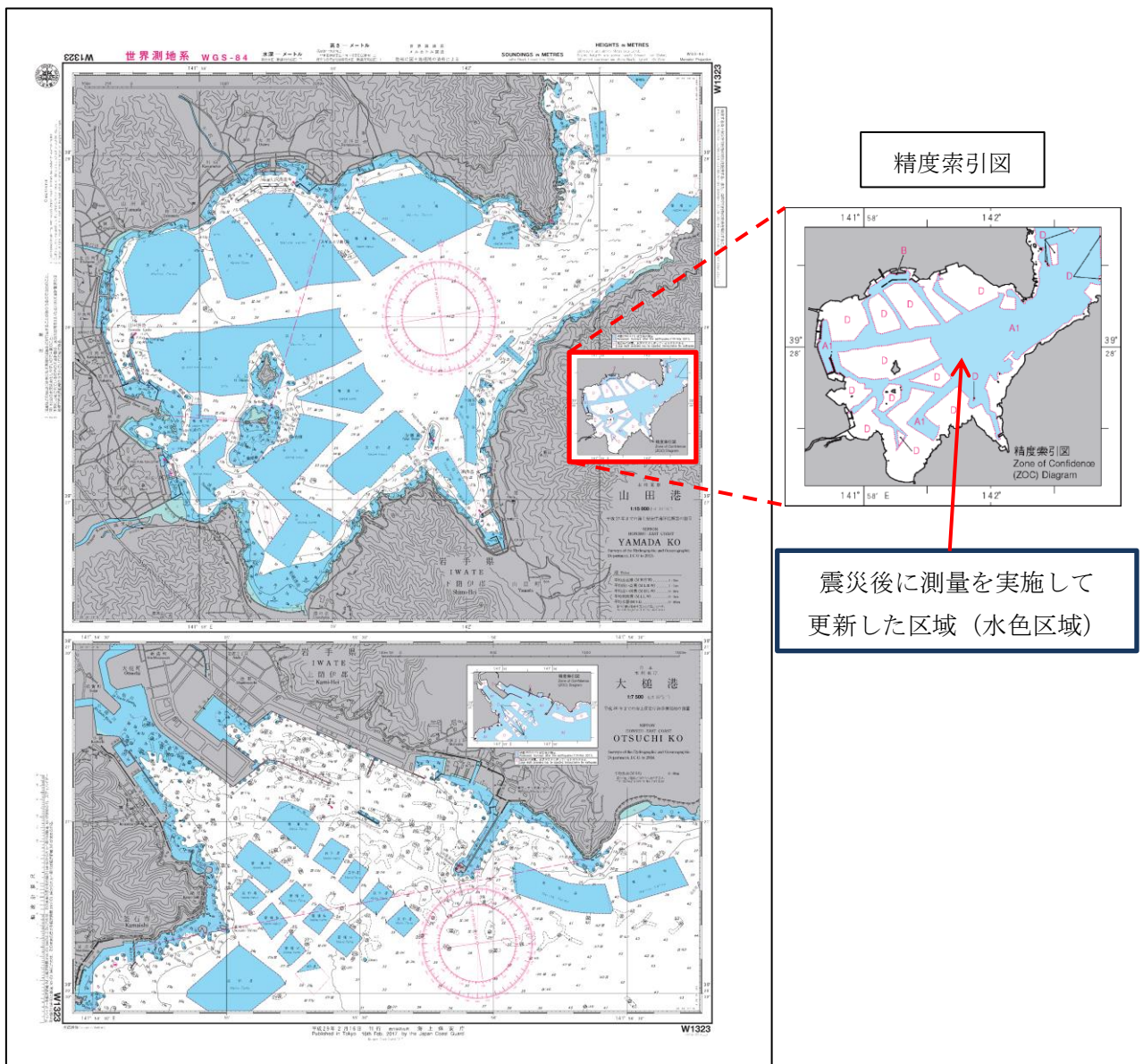
URL <http://www.jha.or.jp/jp/jha/purchase/>

## 海図「山田港、大槌港」(海図番号 W1323)

改訂前の海図「山田港 (海図番号 W1094)」は、平成 21 年に改訂したもので、宮古港との合図<sup>※</sup>でした。震災後は宮古港の海図をいち早く改訂するために宮古港の分図を削除し、山田港単独の図にしました (宮古港の海図は W1405 として平成 24 年に発行)。今回の改訂までの間は港湾施設の破損状況、復旧状況を水路通報<sup>※</sup>により情報提供し、海図を修正してきました。

今回の改訂では海上保安庁測量船「天洋」による測量 (平成 27 年 8 月から 9 月実施) に加え、復興状況を調査した情報により山田港全域を震災後の測量データに更新しました。震災後に測量し、最新の情報となった区域は海図中の精度索引図<sup>※</sup>により確認することができます。

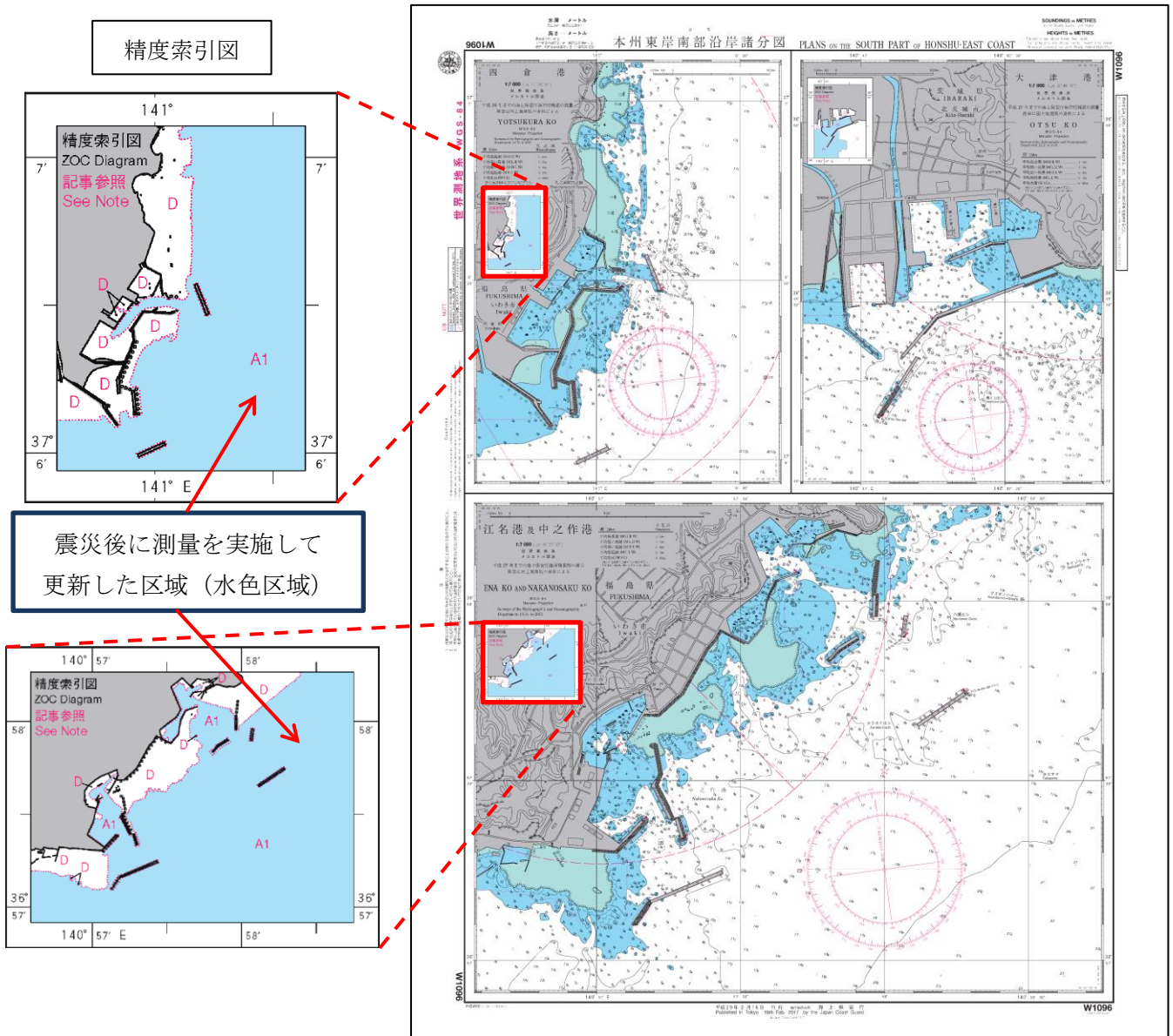
また、山田港単独海図であったところ、包含区域を見直し大槌港と合図して海図番号も改めました。



## 海図「本州東岸南部沿岸諸分図」(海図番号 W1096)

改訂前の海図「本州東岸南部沿岸諸分図」は、四倉港、江名港及び中之作港が記載され、震災後の港湾施設の破損状況、復旧状況を水路通報<sup>※</sup>により情報提供し、海図を修正してきました。

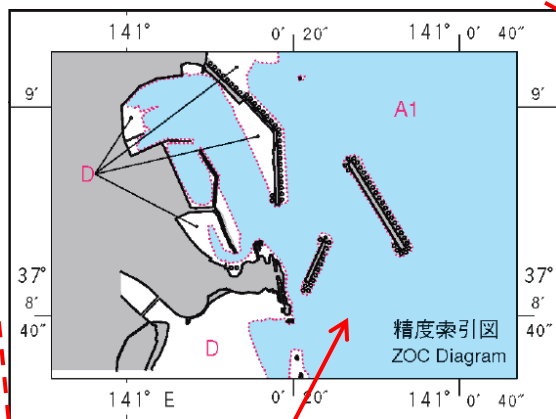
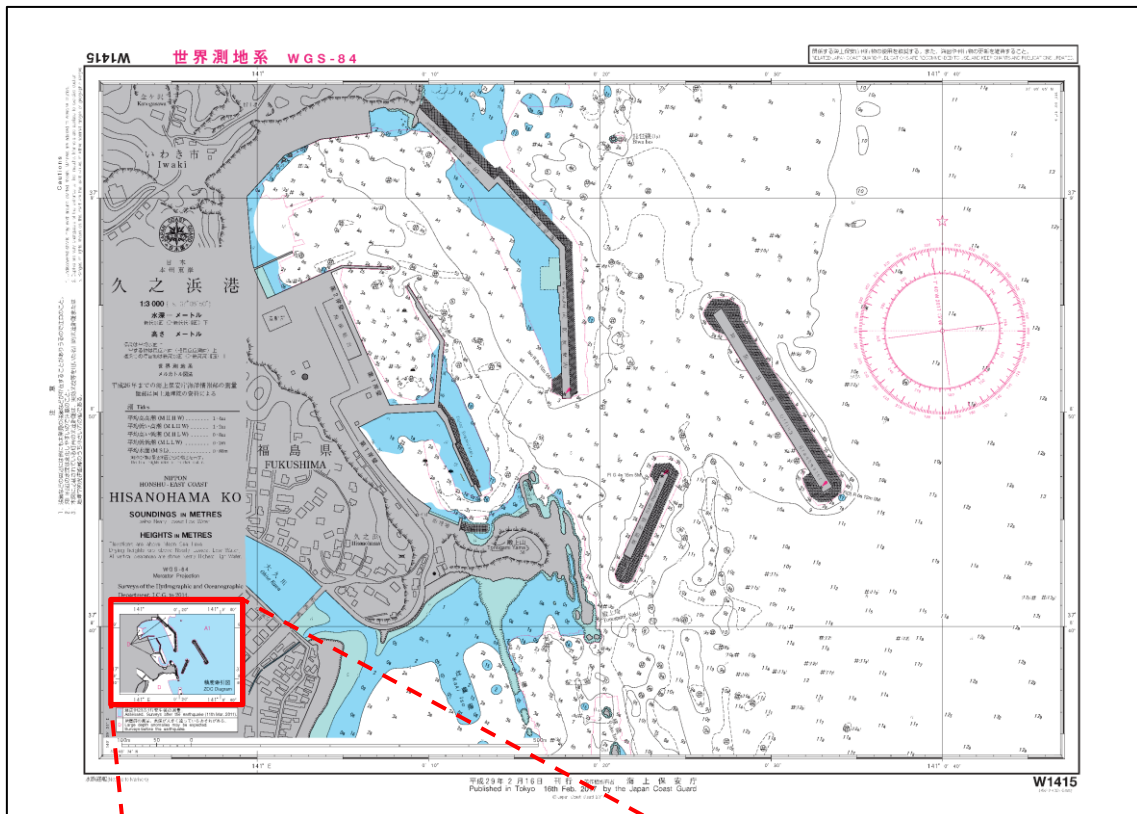
今回の改訂では海上保安庁測量船「天洋」による測量(平成26年10月から11月(四倉港)平成27年8月から9月(江名港、中之作港)実施)に加え、復興状況を調査した情報により海図ほぼ全域を震災後のデータに更新しました。震災後に測量し、最新の情報となった区域は海図中の精度索引図<sup>※</sup>により確認することができます。



## 海図「久之浜港」(海図番号 W1415)

改訂前の海図「久之浜港」は、平成 18 年に改訂したものでした。震災後は港湾施設の破損状況、復旧状況を水路通報※により情報提供し、海図を修正してきました。

今回の改訂では海上保安庁測量船「天洋」による測量(平成 26 年 10 月から 11 月(久之浜港)実施)に加え、復興状況を調査した情報により海図ほぼ全域を震災後のデータに更新しました。震災後に測量し、最新の情報となった区域は海図中の精度索引図※により確認することができます。

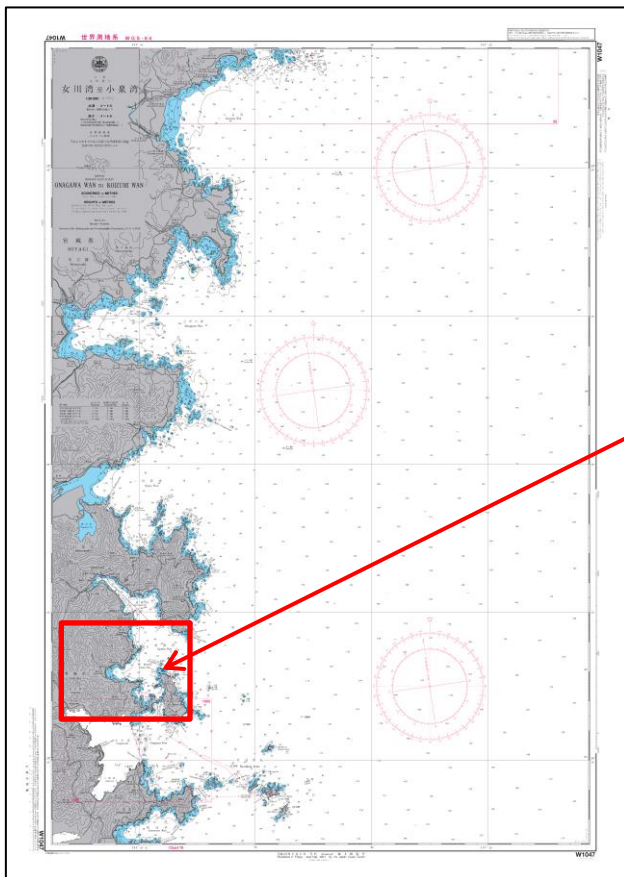


震災後に測量を実施して  
更新した区域 (水色区域)

## 海図「女川湾至小泉湾」（海図番号 W1047）

改訂前の海図「女川湾至小泉湾」は、平成 15 年に改訂したものでした。震災後は港湾施設の破損状況、復旧状況を水路通報<sup>※</sup>により情報提供し、海図を修正してきました。

今回の改訂では平成 28 年 10 月に改訂された海図「女川湾（W1095）」の変更点に加え、震災後調査した港湾情報によりデータを更新しました。今後もこれまでに改訂した港湾を包含する広域海図の改訂を行ってまいります。



平成 28 年 10 月に  
海図「女川湾」として改訂した区域

---

### ※各海図解説の注

・合図、分図とは

海図 1 枚の中に 2 海域以上の図を記載したもの。それぞれの図の事を分図という。

・水路通報とは

海図を最新の状態に維持するための情報並びに船舶交通の安全に必要な各種情報を海上保安庁がインターネットにより週 1 回発行している。

・精度索引図とは

震災前後の測量区域を見分けられるように海図内に記載した図。水色区域は震災後の測量区域を表しており、白色区域は地震以前の測量区域で、水深が大きく違っているおそれがあることを表している。

・図積とは

海図全紙のサイズが 765mm×1085mm。その長辺が半分のサイズを 1/2、更に半分を 1/4 という。